

福井県医師会

だより

第609号 平成24年(2012)3月



白モン族の村の子供たち

鯖江市 今野 利男

表紙写真説明：白モン族の村の子供たち

鯖江市 今野 利男

ベトナム北部の町ディエンビエンフーからラオス国境の方に入ったところに、白モン族の人達が住む村がありました。子供達はとても人なつっこく、見知らぬ外国人を歓迎してくれました。古い自転車が大切に壁にかけてあるのが印象的でした。

醫 縫 録

勝山市医師会の現状と課題

勝山市医師会長 若 林 正三郎



勝山市医師会は昭和39年8月、勝山市内の開業医と社会保険勝山病院（現福井社会保険病院）の勤務医を会員として発足いたしました。当時は勝山市の人口も約3万6千人を数え、主要産業である繊維産業の隆盛華やかかなりし頃で、市内の本町や河原町辺りは輦紅塵中の活気が満ち溢れていたようです。しかしながら近年、奥越地域では過疎化・少子化の波がいち早く押し寄せ、平成23年11月末現在当市の人口は25,957人（8,223世帯）、高齢化率は30%に達しています。産業構造の変化に伴い昼間の通勤流出入口が4千人を超えるなど、右肩上がりの成長が期待出来ない中で、平成13年度より勝山市はエコミュージアム構想を打ち上げ、住民参加による地域づくりを目指しています。エコミュージアムとは、エコロジーとミュージアムとの合成語で、地域住民が築いてきた自然、文化、産業、歴史などを遺産として見つめ直し、市民全員がその価値を再認識して保存整備を進め、自信と誇りを持って地域を未来に継承していこうというまちづくりの取り組みです。そのためには、市民一人ひとりの自覚と自主的な行動、協力体制が求められています。

私は平成23年4月に第11代会長に就任させていただきました。どうか宜しく申し上げます。さて、私共の医師会は現在A会員16名、B会員28名（内、県医師会員23名）の計44名で構成されています。A会員が大変少ない医師会ですので、県医師会や市関係の各種委員会など、各会員の方々には複数の仕事をお願いしなければならず大変心苦しい思いですが、B会員のご協力もいただきながら何とかやっています。医師会活動として主なものは、年に2回の総会と四半期毎の例会、年1回の研修旅行、在宅当番医、個別・集団予防接種への

協力、基本検診・がん検診の実施、介護認定審査会、市民健康講座への協力、産業医活動、学校医活動への参加などです。また、年6回のペースで奥越学術講演会を大野市医師会と共催させていただいて、昭和59年以来すでに150回余を数えています。非常に多彩な分野から多くの講師の先生に時宜に合ったご講演をさせていただき、各会員の専門科目以外の研鑽にも役立っています。アットホームな雰囲気の中、頭をリフレッシュできるとても良い場だと思うのですが、当医師会からの出席者が最近減少傾向なのがやや残念です。

当面の課題としては、一般社団法人への移行と既に開始されている医療監視への対応が挙げられます。移行のため予算や事業計画の見直しを進めていますが、これまでの当医師会の活動は少し受け身に過ぎた感じがします。個々の医療行為は社会と切り離せない以上、会員同士の地域内連携を図り、医療と社会・行政との橋渡しをするのが医師会の役割だと思います。当市内には地域の医療資源として福井社会保険病院という中核的な病院も抱えていますので、より効率的な病診連携を模索しながら、主体的な活動計画を加えていければと思っています。また、医療監視についても自院の診療体制を見つめ直す良い機会と考えられないでしょうか。今年は税と社会保障の一体改革や厳しい診療報酬改定が予想される中、勝山市として救急医療体制の確保、産科医療の充実、がん検診受診率の向上、高い予防接種実施率の維持、介護保険料の改定など諸問題は山積していますが、会員の皆様のご協力を得て頑張る所存です。